

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドット相立てくてく3

国立市立国立第七小学校

平成27年5月1日 NO.14 (214)・・・前号はNO.11ではなく13でした!失礼しました。

花ちゃん 「はかせ モンタ博士のいうように、私は、わたし 国立くにたちや谷保やほのあちこちをてくてくすることにしました。どんなものがあるか楽しみになってきました。」

モンタ博士 「谷保天神もあるだろう。前にもお伝えしたけど、谷保天満宮の森は東京都の宝物たからものにもなっているんだよ。くわしくいうと、『都の天然記念物』というこ

とのさ。」

オー君 「あ! そういえば、鳥居のところに何か立て札があつたよ。」

モンタ博士 「みんなにはむずかしいけど、そのままお伝えするね。」

東京都指定天然記念物  
谷保天満宮社叢

所在地 国立市谷保五二〇八  
指定 大正一三年二月

谷保天満宮は、国立市の南、多摩川を臨む立川段丘の縁にあります。その由来について、「武藏国多摩郡谷保村天満宮略縁記(起)」は、菅原道真の第三子三郎がここに流され、三郎殿を建立したこと、また、はじめ本宿村の南天神島というところに創建され、津戸三郎為守が靈夢をみて現在地に遷したことなどが記されています。

社叢とは、いわゆる鎮守の森のことで、参拝者はその鎮守の森のおごそかな雰囲気の中、参道を進みます。

甲州街道は一七世紀のある時期まで、谷保のあたりで立川段丘の下を通りましたので、天満宮の本殿・拝殿は街道に面し、南向きに建てられています。

甲州街道が段丘上を通るようになると、人の流れも変わり、参道は駅や甲州街道からこの鎮守の森を抜け、本殿に向かうようになりました。かつては谷保天満宮を取り囲んで、杉を主体とする鬱蒼とした森が広がっていました。現在は、ケヤキ、ムクノキ、エノキなどが優占する林となっています。また河岸段丘の豊富な湧水が流れ、神社に風格を添えていま

平成二四年三月 建設 東京都教育委員会

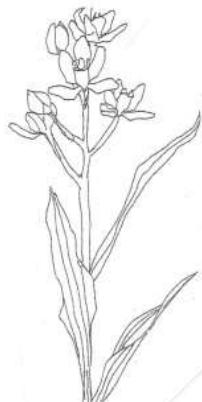
モンタ博士 「それから、今あちこちの山や野原で咲いていそうな花の続編をかいたから参考こうにして下さい。」



ニリンソウ



イチリンソウ



キンラン



オオムラサキツツジ



ハナミズキ



ノイバラ



ニガナ



ヤマブキソウ



ドクダミ



アカツメクサ



シロツメクサ



ハンカチーフの木



オカタツナミソウ